

2024年度 放送大学教育振興会助成事業成果概要

1. 事業の課題名

教育機関内外での学びをシームレスに記録・省察・統合できるeポートフォリオシステムの機能開発と評価

2. 研究者情報

所属機関名	放送大学
職 名	准教授
研究者・研究 代表者氏名	平岡 斉士

3. 事業の目的等

「生涯学習を支援するbポートフォリオシステム」に教育機関内・外の学びをシームレスに取り扱える機能を新たに設計・開発・実装する。そのシステムを実際の生涯学習者に試行してもらうことで評価し、改修を行う。

本システムでは「読書記録」と「経験記録」の機能は実装されているが、教育機関内外の学習リソースを使った学びに特化した記録と振り返りの仕組みはない。そこで、教育機関内外の学習リソースの特性にあわせた記録と振り返りができ、読書や一般経験の学びをシームレスに記録・統合できる機能が必要となる。また、上記機能のプロトタイプを開発し、生涯学習者が多く在籍する放送大学の学生に試用してもらって改善点を見出して改修することが必要である。

4. 事業の成果の概要

1. 申請書に記載した「予想される成果・意義」に即して以下に記述する。

(1) 生涯学習の支援：本システムにより、教育機関内外の学習リソースをシームレスに統合し、生涯学習をより効果的に支援することが可能となる。これにより、学習者は自身の学びを一元的に管理し、振り返り、統合することができる。

→ 「学びの記録」機能を新規設計・開発し、本システムに統合した。

(2) 自己理解とキャリア開発の促進：学習者は自身の学びを記録・省察することで、自己理解を深め、自身のスキルや経験を他者にアピールすることが可能となる。これは、キャリア開発やリスキリングにも有用である。

→ 「学びの記録」機能ならびに、従来からの機能である「読書記録」「体験記録」を、学習者が横断的に活用し、自らの学びの成果や気づきなどを記述した「マイビリーフ」を形成・更新できるようにした。マイビリーフは他者からも閲覧ができるようにした（公開範囲の指定が可能）。

(3) 教育機関と生涯学習の統合：教育機関の教育カリキュラムと教育機関外での学び（教育コンテンツ・読書・その他のあらゆる経験）をシームレスに統合することで、学習者は教育機関への在籍の有無によらず、自身の学びの継続的な記録・省察・統合が可能となる。

→ 教育機関のカリキュラムと本システムの統合は未達成であるが（当該教育機関のカリキュラムが想定以上に複雑であったため）、それ以外の部分、すなわち、教育機関内での学びと教育機関外での学び（教育コンテンツ・読書・その他のあらゆる経験）をシームレスに統合することはできた。これによって学習者は教育機関への在籍の有無によらず、自身の学びの継続的に記録・省察・統合が可能となった。

(4) 学習者自身の学びの記録：本システムは教育機関とは独立して運営されるため、誰もが利用できる。これにより、教育機関が設定する学習目標とは独立した個人の学びを記録でき

る。

→ 本システムは、株式会社アルベッジのサーバー上で運用・公開されており、ユーザーが無料で利用できるようにしている。

（５）他者の学びからの学び：本システムの利用者は希望に応じて自分の学びの記録を公開できる。学びの記録や成果を共有することで、教育機関内外での学びの連携強化、ラーニングコミュニティの形成などが期待される。

→ 本システム上で、学習者が記録した内容は学習者の希望に応じて公開範囲を指定できる。現時点でグループ機能はないが、互いに公開相手として指定することで、グループ機能と同様の効果を得られるため、必要に応じてコミュニティの形成が可能である。

2. 上記以外の成果

「学びの記録」を支援する新機能を開発・公開し、想定されるユーザーと同様のユーザーによる試行と評価を実施した。評価者は社会人学生経験者 10 名（放送大学の学生・卒業生 5 名、教育工学系の大学院修了生 5 名）であった。評価の結果、教育工学系の評価者は b ポートフォリオによる学びを肯定的に受け入れたが、放送大学の学生・卒業生の中には、マイビリーフ形成の意義を否定的にとらえる者や、そもそも理解しようとししない者もいた。この差異は、教育工学系の評価者は学問領域の特性上、学びの振り返りと統合の重要性を認識していたが、放送大学の学生・卒業生には、個別の学びにとどまり、学びを統合する観点を持たない者がいたためと考察された。